

平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 太洋工業株式会社

コード番号 6663 URL <http://www.taivo-xelcom.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 細江 美則

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼経営企画部長 (氏名) 阪口 豊彦

TEL 073-431-6311

四半期報告書提出予定日 平成26年8月1日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第2四半期の連結業績(平成25年12月21日～平成26年6月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第2四半期	1,930	3.5	△45	—	△20	—	△32	—
25年12月期第2四半期	1,865	△0.6	△88	—	△79	—	△80	—

(注) 包括利益 26年12月期第2四半期 △31百万円 (—%) 25年12月期第2四半期 △63百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第2四半期	△5.51	—
25年12月期第2四半期	△13.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第2四半期	5,106	3,105	60.7
25年12月期	4,991	3,154	63.0

(参考) 自己資本 26年12月期第2四半期 3,097百万円 25年12月期 3,143百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
26年12月期	—	0.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成25年12月21日～平成26年12月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,193	8.9	1	—	125	—	78	—	13.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料4ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年12月期2Q	5,850,000 株	25年12月期	5,850,000 株
-----------	-------------	---------	-------------

② 期末自己株式数

26年12月期2Q	144 株	25年12月期	144 株
-----------	-------	---------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期2Q	5,849,856 株	25年12月期2Q	5,849,920 株
-----------	-------------	-----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、設備投資の増加や雇用情勢の改善など緩やかな景気回復基調が続いているものの、消費増税に伴う駆け込み需要の反動や依然として海外景気の下振れがリスクとして存在する等、一部で弱い動きもみられました。

当社グループが属する電子基板業界は、スマートフォン等モバイル端末市場や自動車市場向けの需要が堅調に推移した一方、スマートフォンの普及によるコンパクトデジタルカメラの市場縮小の影響を大きく受けました。また、収益面においては、新興国企業の台頭による競争激化やそれに伴う価格競争など取り巻く環境は厳しい状況が続きました。

このような経済環境の下、当社グループの主力事業である電子基板事業においては、カメラメーカー向け及びFPCメーカー向けの売上は減少したものの、セットメーカー向け全体の売上が増加いたしました。基板検査機事業においては、外観検査機の売上は減少したものの、通電検査機の売上が増加いたしました。これらの結果、連結売上高は1,930百万円（前年同四半期比3.5%増）と、前年同四半期連結累計期間に比べ65百万円の増収となりました。

損益については、売上高材料費率の上昇等の利益減少要因はあったものの、残業時間の抑制など販売費及び一般管理費の減少等の影響から損失は縮小し、営業損失45百万円（前年同四半期は88百万円の営業損失）、経常損失20百万円（同79百万円の経常損失）、四半期純損失32百万円（同80百万円の四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

(電子基板事業)

カメラメーカー向け及びFPCメーカー向けの売上は減少いたしました。しかしながら、スマートフォン等モバイル端末を中心とした市場が好調に推移し、ディスプレイの新規開発が活発に行われたこと等を背景として、試作及び量産案件の受注活動を積極的に推進したことから、セットメーカー向け全体の売上は増加いたしました。損益については、売上高材料費率の上昇等による利益減少要因はあったものの、売上高増加に伴う影響等により、増益となりました。

その結果、売上高1,357百万円（前年同四半期比4.6%増）、セグメント利益222百万円（同0.9%増）となりました。

(基板検査機事業)

高い耐熱性が要求される特殊基板向け製品の受注があったものの、外観検査機の売上は減少し、車載用基板対応の製品の受注により、通電検査機の売上が増加いたしました。損益については、売上高増加に伴う影響等により、損失が縮小いたしました。

その結果、売上高226百万円（前年同四半期比28.5%増）、セグメント損失12百万円（前年同四半期は41百万円のセグメント損失）となりました。

(検査システム事業)

設備投資の増加等を背景として、視覚検査装置等の受注が増加したことから、売上高が増加いたしました。損益については、売上高増加に伴う影響等により、黒字転換いたしました。

その結果、売上高124百万円（前年同四半期比775.6%増）、セグメント利益22百万円（前年同四半期は26百万円のセグメント損失）となりました。

(鏡面研磨機事業)

研磨に使用する消耗品等の売上は増加したものの、機械の売上がなかったことから、売上高は減少いたしました。損益については、売上高減少に伴う影響等により、損失となりました。

その結果、売上高29百万円（前年同四半期比84.6%減）、セグメント損失26百万円（前年同四半期は25百万円のセグメント利益）となりました。

(その他)

「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商社事業及びエレクトロフォーミング事業で構成されております。主として商社事業において中国市場での電子基板等の販売が増加したことから、売上高は増加いたしました。損益については、売上高増加に伴う影響等により、損失が縮小いたしました。

その結果、売上高192百万円（前年同四半期比4.8%増）、セグメント損失34百万円（前年同四半期は44百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ129百万円増加し、2,302百万円となりました。これは主として、売上債権及びたな卸資産が減少した一方、現金及び預金が増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ14百万円減少し、2,803百万円となりました。これは主として、その他有形固定資産が増加した一方、有形固定資産の減価償却により減少したものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ90百万円増加し、1,051百万円となりました。これは主として、夏季の賞与を計上したことにより流動負債のその他に含まれる未払費用が増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ73百万円増加し、949百万円となりました。これは主として、長期未払金が減少した一方、資金需要に対応するため長期借入れを行ったことにより増加したものであります。

(純資産)

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ49百万円減少し、3,105百万円となりました。これは主として、利益剰余金の減少によるものであります。

② キャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動により獲得した資金が193百万円、投資活動により使用した資金が17百万円、財務活動により獲得した資金が43百万円となり、その結果、資金は前連結会計年度末に比べ217百万円増加し、600百万円(前年同四半期比43.4%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、193百万円(前年同四半期は49百万円の使用)となりました。これは主として、税金等調整前四半期純損失31百万円により資金が減少した一方、売上債権の減少64百万円、減価償却費57百万円により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、17百万円(前年同四半期は28百万円の使用)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出32百万円により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、43百万円(前年同四半期は31百万円の使用)となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出96百万円、短期借入金の減少65百万円により資金が減少した一方、長期借入れによる収入250百万円により資金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

電子基板事業においては、試作・短納期製造で培った技術力及びワンストップ生産体制を最大限に活かすことで、試作から量産まで顧客ニーズに対応した高難度製品の受注体制の充実・強化に注力してまいります。また、一部旺盛な需要に対して電子基板の量産や様々な電子機器の包括的な案件の受注活動を積極的に推進してまいります。基板検査機事業においては、設備投資の持ち直しが期待され顧客要求も更に高まることが予想される中、潜在ニーズを捉え、コストパフォーマンスに優れた競争力のある製品を積極的に投入し、消耗品である治具の販売ビジネスとのシナジー効果を最大化することで、受注の獲得を目指してまいります。損益については、売上総利益率の改善に取り組むことや徹底したコスト管理を継続し、前期と比較して黒字転換を見込んでおります。

以上のことから、平成26年7月28日発表の「営業外費用の計上、並びに平成26年12月期 第2四半期累計期間、及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」において、通期の連結業績予想の修正を行っており、平成26年12月期通期の連結業績予想については、売上高4,193百万円(前年同期比8.9%増)、営業利益1百万円(前年同期は125百万円の営業損失)、経常利益125百万円(同91百万円の経常損失)、当期純利益78百万円(同108百万円の当期純損失)を見込んでおります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	910,776	1,121,280
受取手形及び売掛金	758,009	692,536
商品及び製品	120,710	165,155
仕掛品	230,657	155,493
原材料及び貯蔵品	75,444	80,553
その他	83,259	93,251
貸倒引当金	△6,378	△6,152
流動資産合計	2,172,479	2,302,118
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	521,921	499,241
機械装置及び運搬具(純額)	200,684	172,962
土地	1,453,498	1,452,568
その他(純額)	15,692	40,291
有形固定資産合計	2,191,796	2,165,064
無形固定資産		
その他	5,232	8,836
無形固定資産合計	5,232	8,836
投資その他の資産		
その他	629,934	638,496
貸倒引当金	△8,416	△8,416
投資その他の資産合計	621,518	630,080
固定資産合計	2,818,547	2,803,980
資産合計	4,991,027	5,106,099

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	184,184	184,060
短期借入金	503,099	511,319
未払法人税等	8,820	2,276
製品保証引当金	960	904
その他	264,013	353,329
流動負債合計	961,076	1,051,890
固定負債		
長期借入金	318,270	398,743
長期未払金	126,200	101,254
退職給付引当金	274,557	288,316
役員退職慰労引当金	149,455	153,910
資産除去債務	6,787	6,827
固定負債合計	875,271	949,052
負債合計	1,836,348	2,000,943
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	793,255	793,255
資本剰余金	916,555	916,555
利益剰余金	1,379,763	1,329,971
自己株式	△26	△26
株主資本合計	3,089,546	3,039,754
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,558	37,541
為替換算調整勘定	23,730	20,569
その他の包括利益累計額合計	54,289	58,110
少数株主持分	10,842	7,291
純資産合計	3,154,678	3,105,156
負債純資産合計	4,991,027	5,106,099



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月21日 至平成25年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年6月20日)
売上高	1,865,529	1,930,832
売上原価	1,320,767	1,365,470
売上総利益	544,761	565,361
販売費及び一般管理費	633,073	610,611
営業損失(△)	△88,311	△45,250
営業外収益		
受取利息	296	276
受取配当金	930	1,114
投資事業組合運用益	—	13,131
助成金収入	11,772	4,447
作業くず売却益	4,226	4,074
その他	10,514	13,327
営業外収益合計	27,739	36,371
営業外費用		
支払利息	5,948	5,568
債権売却損	2,980	3,406
投資事業組合運用損	1,117	—
為替差損	8,192	1,912
その他	724	1,137
営業外費用合計	18,963	12,023
経常損失(△)	△79,535	△20,902
特別利益		
投資有価証券売却益	9	6,804
特別利益合計	9	6,804
特別損失		
減損損失	371	11,336
会員権評価損	—	6,246
固定資産除却損	11	0
投資有価証券評価損	23	—
特別損失合計	406	17,582
税金等調整前四半期純損失(△)	△79,932	△31,680
法人税等	10,035	4,079
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△89,968	△35,759
少数株主損失(△)	△9,616	△3,517
四半期純損失(△)	△80,352	△32,242

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月21日 至平成25年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年6月20日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△89,968	△35,759
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,488	6,982
為替換算調整勘定	17,345	△3,195
その他の包括利益合計	26,833	3,786
四半期包括利益	△63,134	△31,972
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△58,135	△28,421
少数株主に係る四半期包括利益	△4,999	△3,551

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月21日 至平成25年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月21日 至平成26年6月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△79,932	△31,680
減価償却費	49,853	57,594
減損損失	371	11,336
退職給付引当金の増減額(△は減少)	20,216	13,758
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,425	4,455
製品保証引当金の増減額(△は減少)	148	△56
貸倒引当金の増減額(△は減少)	525	△226
受取利息及び受取配当金	△1,227	△1,391
支払利息	5,948	5,568
固定資産除却損	11	0
会員権評価損	—	6,246
売上債権の増減額(△は増加)	△90,233	64,392
たな卸資産の増減額(△は増加)	28,596	25,210
仕入債務の増減額(△は減少)	△25,802	766
その他	51,004	51,790
小計	△38,095	207,765
利息及び配当金の受取額	1,227	1,102
利息の支払額	△5,683	△5,502
法人税等の支払額	△7,256	△10,242
営業活動によるキャッシュ・フロー	△49,808	193,122
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	△10,381	6,547
有形固定資産の取得による支出	△6,949	△32,248
投資有価証券の取得による支出	△1,200	△1,636
投資有価証券の売却による収入	45	7,797
保険積立金の積立による支出	△15,129	△14,758
保険積立金の解約による収入	2,781	5,234
その他	2,345	11,668
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,488	△17,397
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△70,000	△65,000
長期借入れによる収入	200,000	250,000
長期借入金の返済による支出	△118,450	△96,307
長期未払金の返済による支出	△25,170	△27,297
自己株式の取得による支出	△13	—
配当金の支払額	△17,549	△17,549
財務活動によるキャッシュ・フロー	△31,184	43,846
現金及び現金同等物に係る換算差額	17,624	△2,521
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△91,856	217,050
現金及び現金同等物の期首残高	510,419	383,238
現金及び現金同等物の四半期末残高	418,562	600,288

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年12月21日 至 平成25年6月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子基板 事業	基板検査 機事業	検査シス テム事業	鏡面研磨 機事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,297,722	176,609	14,241	193,582	1,682,155	183,373	1,865,529	—	1,865,529
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	14,604	97,681	—	—	112,285	15,688	127,974	△127,974	—
計	1,312,327	274,291	14,241	193,582	1,794,441	199,062	1,993,503	△127,974	1,865,529
セグメント利益 又は損失(△)	220,881	△41,135	△26,228	25,953	179,470	△44,716	134,754	△223,066	△88,311

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商社事業及びエレクトロフォーミング事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△223,066千円には、セグメント間取引消去1,784千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△224,850千円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年12月21日 至 平成26年6月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子基板 事業	基板検査 機事業	検査シス テム事業	鏡面研磨 機事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,357,367	226,856	124,689	29,732	1,738,645	192,186	1,930,832	—	1,930,832
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	62,508	89,712	—	—	152,220	23,280	175,501	△175,501	—
計	1,419,875	316,569	124,689	29,732	1,890,866	215,467	2,106,333	△175,501	1,930,832
セグメント利益 又は損失(△)	222,778	△12,052	22,072	△26,149	206,649	△34,484	172,164	△217,415	△45,250

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商社事業及びエレクトロフォーミング事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△217,415千円には、セグメント間取引消去9,428千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△226,843千円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、事業再編に伴う管理区分の変更を行ったため、従来「電子基板事業」に含めていたメカトロニクス部門を「基板検査機事業」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。